

「キャンプ指導者入門」資料 理論編 第2章

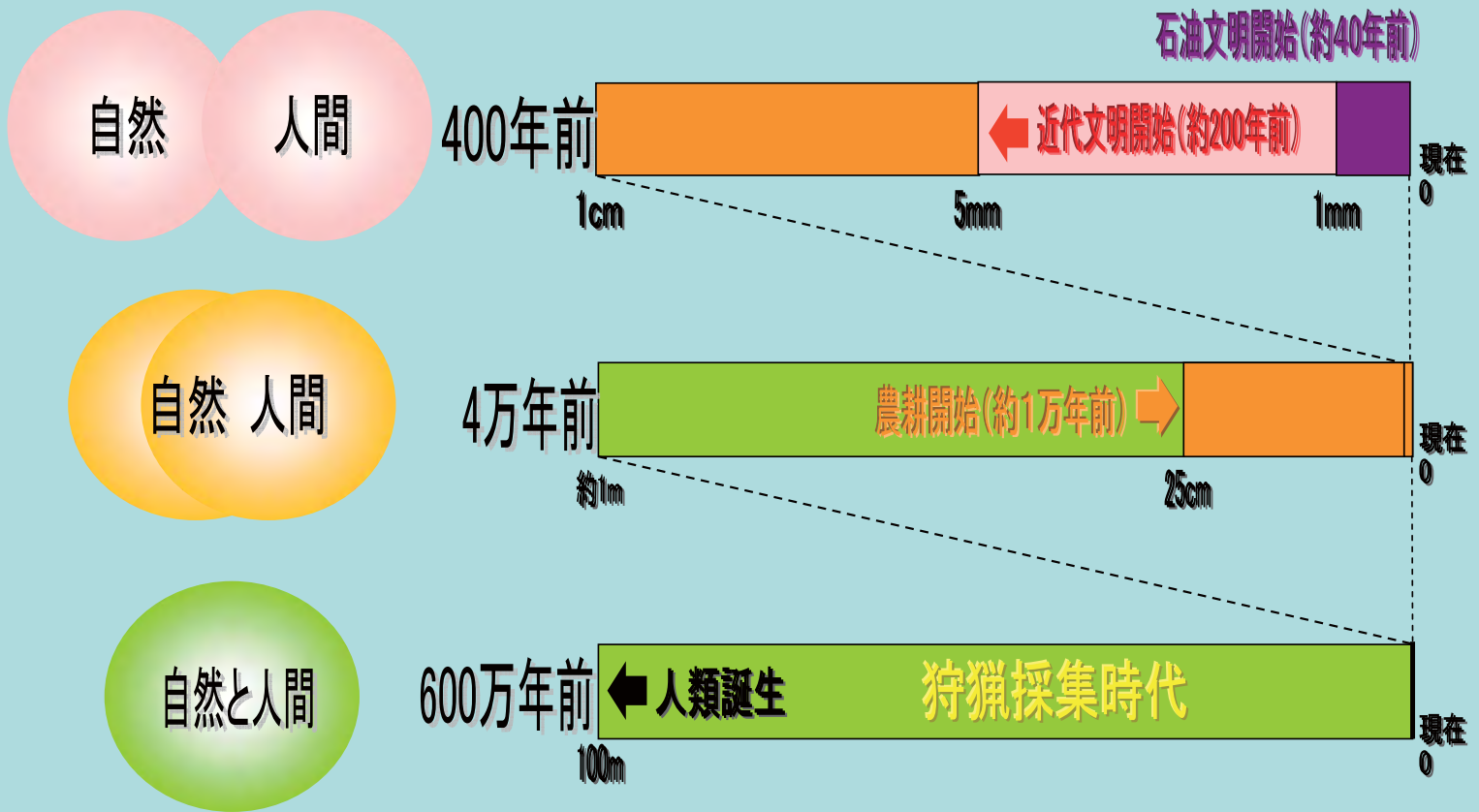
資料番号	資料名	掲載ページ	資料ページ
理 02- 01	世界と日本のキャンプの歴史	36	2~3
理 02-02	人類の歴史と自然	38	4
理 02-03	子どもの体力の現状	39	5
理 02-04	自律神経系の働き	40	6
理 02-05	免疫系の働き	40	7
理 02-06	内分泌系の働き	40	8
理 02- 07	キャンプ中の自律神経	42	9~10
理 02- 08	キャンプ中の自覚疲労	43	11
理 02-09	幼児期から老年期までの精神発達	43	12
理 02- 10	幼児期から青年期までの諸発達	43	13
理 02-11	さまざまな発達理論	45	14~15
理 02- 12	将来の主要なリスクとは？	48	16
理 02-13	各国の削減目標	50	17
理 02-14	植物の垂直分布	52	18
理 02- 15	2種類のチョウのすみわけ	52	19
理 02-16	川の魚のすみわけ	52	20
理 02-17	地形の理解	54	21

世界と日本のキャンプ関連の歴史

西暦	国、地域	事 項
1861	アメリカ	F. W. Gunn がガナリースクールで最初の学校キャンプを実施。(コネティカット州)
1876	アメリカ	J. T. Rothrock 医師が身体虚弱な子ども達のために私設キャンプを実施。(ペンシルバニア州)
1880	アメリカ	G. W. Hinckley 牧師が最初の教会キャンプを実施。(ロードアイランド州)
1881	アメリカ	ブルックリン YMCA が最初の YMCA キャンプを実施。(ニューヨーク州)
1895	ヨーロッパ	ワンダーフォーゲル運動が始まる。
1902	アメリカ	Laura Mattoon が女子のためのキャンプ (Camp Kehonka) を開設。(ニューハンプシャー州)
1907	イギリス	Robert Baden-Powell がボーイスカウトを設立。
	日本	東京府慈善協会(後社会事業協会)が身体虚弱な保育児童対象の転住事業としてキャンプを実施。(千葉県、八幡宿)
1910	イギリス	Agnes Baden-Powell (Robert Baden-Powell の妹) がガールスカウトを設立。
	ヨーロッパ	ユース・ホステル運動(青少年宿泊運動)が起こる。
	アメリカ	アメリカ・キャンプディレクター協会(現アメリカキャンプ協会)設立。
1916	日本	京都少年義勇軍が日本で最初のボーイスカウトキャンプを実施。(滋賀県、琵琶湖畔)
1920	日本	大阪 YMCA が最初のキャンプを実施。(兵庫県、六甲山麓)
	日本	ガールスカウトが最初のキャンプを実施。(福島県、猪苗代湖畔)
1923	日本	東京 YMCA が最初の組織キャンプ場(現東京 YMCA 山中湖センター)を開設。(山梨県、山中湖畔)
1928	日本	日本 YWCA・東京 YWCA が YWCA で最初のキャンプを実施。(静岡県、御殿場)
1936	カナダ	カナダキャンプ協会設立
1941	イギリス	Kurt Hahn が OBS (Outward Bound School) を設立。
1940年代	アメリカ	野外教育 (outdoor education) という用語が使われはじめる。
1951	日本	読売新聞社が全日本学生キャンプ(現環太平洋学生キャンプ)を開催。(長野県、戸隠)
1953	日本	文部省(当時)が『青少年キャンプ指導の手引き』を刊行。
	日本	神戸 YMCA とアサヒキャンプが共同で最初の肢体不自由児を対象としたキャンプを実施。(香川県、余島)
1959	日本	文部省(当時)が日本で最初の国立青少年教育施設(現国立中央青年の家)を設立。(静岡県、御殿場)
1960年代	アメリカ	OBS に影響を受けた冒険プログラムが実施される。
1960	日本	文部省(当時)が「第1回教育キャンプ指導者講習会」を開催。
1961	日本	スポーツ振興法公布。野外活動の普及が奨励される。
1966	日本	日本キャンプ協会設立。
1975	日本	文部省(当時)が日本で最初の国立少年自然の家(現国立室戸青少年自然の家)を設立。(高知県、室戸)
	日本	日本キャンプ協会がキャンプ指導者資格認定制度を開始。
	台湾	中華民國露營協會設立。
1983	カナダ	第1回国際キャンプ会議 (ICC) 開催。(オンタリオ州)
1984	日本	文部省(当時)が自然教室推進事業を開始。
1987	—	国際キャンプ連盟 (ICF) 設立。日本キャンプ協会も加盟。
	アメリカ	第2回 ICC 開催。(ワシントン D.C.)
1988	ベネズエラ	ベネズエラキャンプ協会設立
	マレーシア	マレーシアキャンプ協会設立
1990	日本	日本キャンプ協会が文部省体育局生涯スポーツ課所轄社団法人となる。
1993	ロシア	ロシアキャンプ協会設立
	ギリシャ	ギリシャキャンプ協会設立

1993	モンゴル	モンゴルキャンプ協会設立
1994	カナダ	第3回 ICC 開催。(オンタリオ州)
	メキシコ	メキシコキャンプ協会設立。
	コロンビア	コロンビアキャンプ協会設立
1997	日本	日本キャンプ協会が第1回日本キャンプ会議を開催。
	日本	日本野外教育学会創設。
1997	ロシア	第4回 ICC 開催。(サンクトペテルブルク)
1998	日本	日本キャンプ協会が指導者資格制度を変更。(現行制度へ)
	ケニア	ケニアキャンプ協会設立。
1999	ウクライナ	ウクライナキャンプ協会設立。
	バングラディシュ	バングラディシュキャンプ協会設立。
2000	日本	第5回 ICC 開催。(東京、全国各地)
	日本	自然体験推進協議会 (CONE) 設立。
2001	日本	国立青少年教育施設が独立行政法人となる。
	日本	日本キャンプ協会創立 35 周年。
2003	オーストラリア	第6回 ICC 開催。(メルボルン)
2004	モンゴル	アジアキャンプ連盟 (ACF) 設立。第1回アジアキャンプ会議 (ACC) 開催。(ウランバートル)
2005	日本	愛知万博「愛・地球博」で、「森の自然学校」「里の自然学校」プログラムが実施される。(愛知)
	メキシコ	第7回 ICC 開催。(メキシコシティ)
	オーストラリア	オーストラリアキャンプ協会設立。
2006	マレーシア	第2回 ACC 開催。(ペラ州)
	—	アジアキャンプ連盟がアジア・オセアニアキャンプ連盟 (AOCF) へ改称。
	リベリア	リベリアキャンプ協会設立。
2007	日本	日本キャンプ協会が静岡県立朝霧野外活動センターの指定管理者に。
	日本	森のようちえん全国ネットワーク設立。
2008	カナダ	第8回 ICC 開催。(ケベック州)
	日本	文部科学省の「青少年体験活動総合プラン」に基づく自然体験活動指導者養成事業 (NEAL) 開始。
2009	台湾	第3回アジア・オセアニアキャンプ会議 (AOCC) 開催。(台北)
	—	ヨーロッパキャンプ連盟設立。
2010	トルコ	トルコキャンプ協会設立。
2011	香港	第9回 ICC、第4回 AOCC 開催。(香港)
	日本	日本キャンプ協会、日本 YMCA 同盟、朝日新聞厚生文化事業団が共同でグリーンフィールド・プロジェクトを開始。
2013	オーストラリア	第5回 AOCC 開催。(シドニー)
	中国	CEA(China Education Alliance)設立。
2014	トルコ	第10回 ICC 開催。(アンタルヤ)
2015	日本	スポーツ庁が設置される。
2016	日本	日本キャンプ協会が創立 50 周年を迎える。
	日本	第6回 AOCC 開催。(東京)
	日本	スペシャルニーズ・キャンプ・ネットワーク設立。
	—	アジア・オセアニアキャンプ連盟が ICF-Asia Oceania (ICF-AO) へ改組。
2017	ロシア	第11回 ICC 開催。(ソチ)

人類史にみられる 自然と人間の関わりと暮らし方の変化



子どもの体力の現状



身長・基礎的運動能力の比較

	男子		女子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	143.2	145.4(↑2.2)	145.5	147.0 ↑1.5)
50m走 (秒)	8.8	8.8(0.0)	9.0	9.1 (0.1遅い)
ソフトボール投げ (m)	34.0	26.8 (↓7.2)	20.5	16.3(↓4.2)

※親の世代は昭60年度の11歳(さい)、今の子ども達は平成29年度の11歳(さい)
 ※全国平均値は小数点以下第2位で四捨五入しています。

子どもの体力向上ホームページ <https://www.recreation.or.jp/kodomo/>
 図: https://www.recreation.or.jp/kodomo/current/now.html#physical_fitness

自律神経系の働き

自律神経は脳を胃腸や心臓などを動かす筋肉と結び、脳の指令と内臓の情報とのやり取りをおこなう。

交感神経

積極的に活動しているときに優位に働いている。

- 瞳孔の拡大
- 抹消血管の収縮
- 胃液の分泌抑制
- 心拍数の上昇

副交感神経

身体を安静にしているときに働く。

- 瞳孔の縮小
- 抹消血管を広げる
- 胃液の分泌
- 心拍数の減少

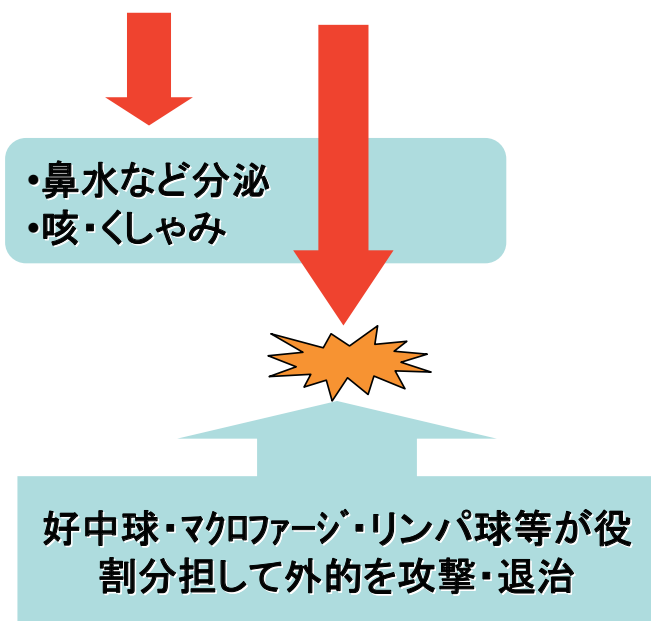
両者のバランスの上に健康が保たれている

バランスの乱れにより、便秘、活力低下、胃痛などの症状や高血圧、心身症、神経症の発症因子の拡大

免疫系の働き

身体を病原体などから守る働きがある。

病原菌の体内への侵入



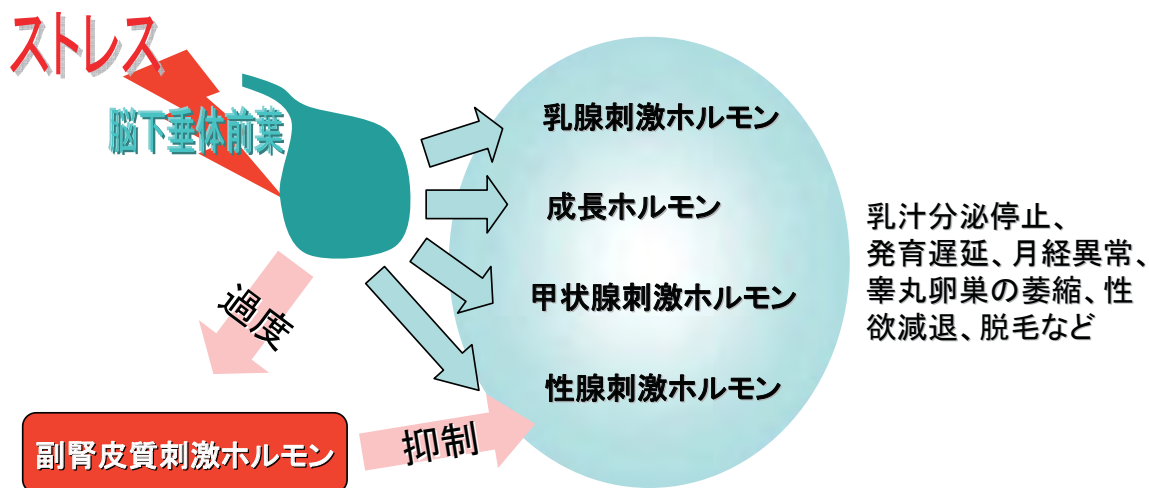
免疫力の低下要因

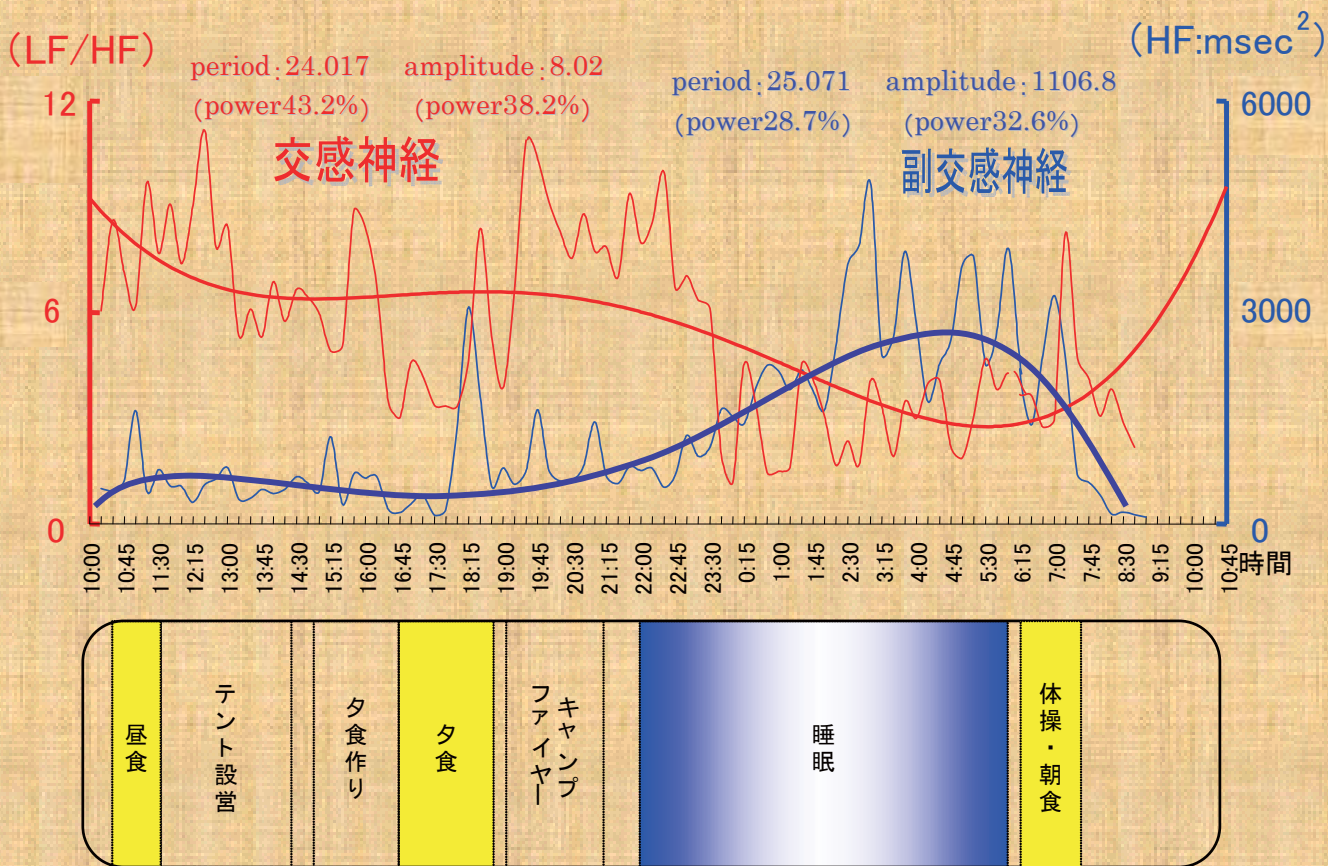
- ・環境変化によるストレス
- ・栄養不良によるストレス
- ・老化による影響
(10～20代をピークに下降)

内分泌系の働き

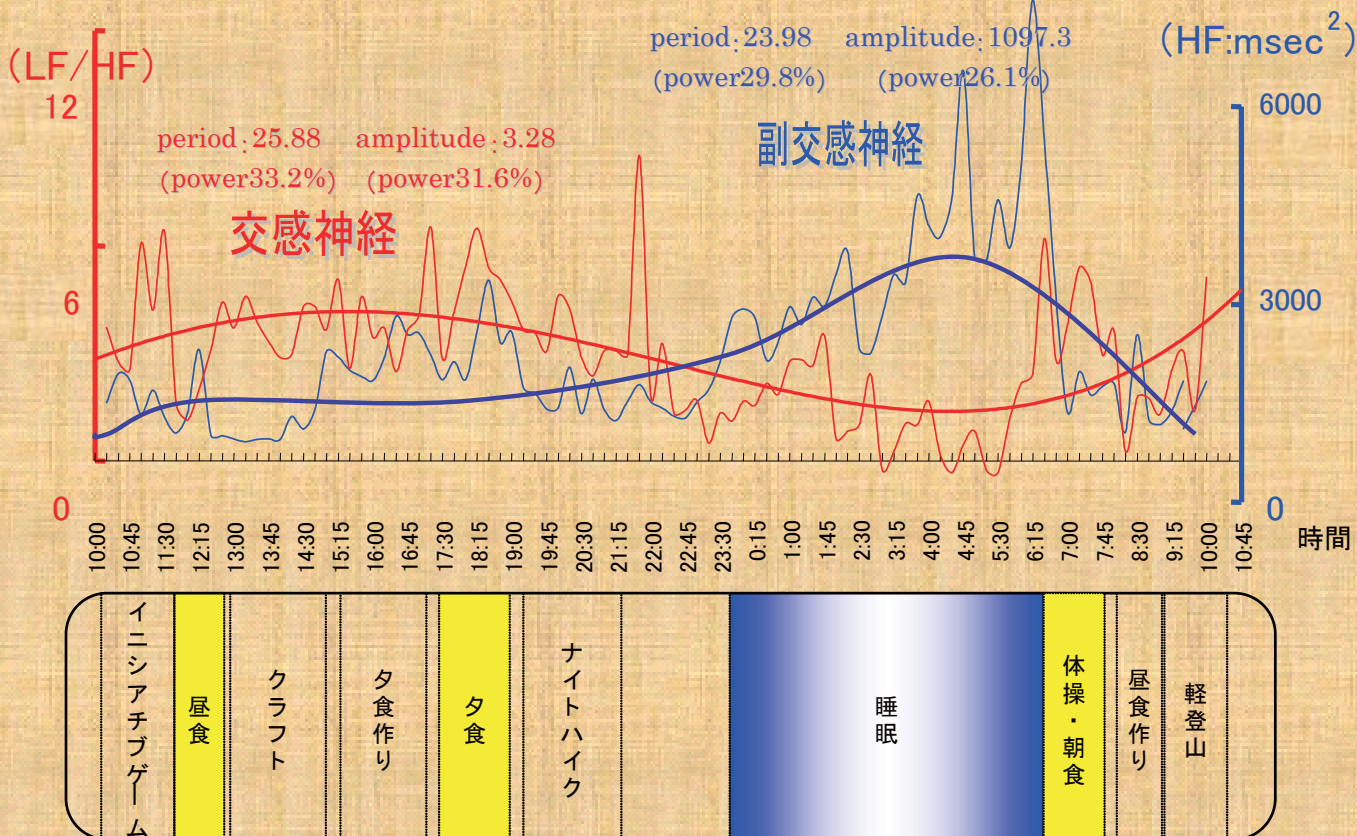
様々な臓器によって生産されたホルモンによって、直接血液中に分泌され、成長を促したり、男らしさや女らしさを作ったり、水分量の調節等もおこなっている。

ホルモンバランスの乱れ(ストレスの影響)

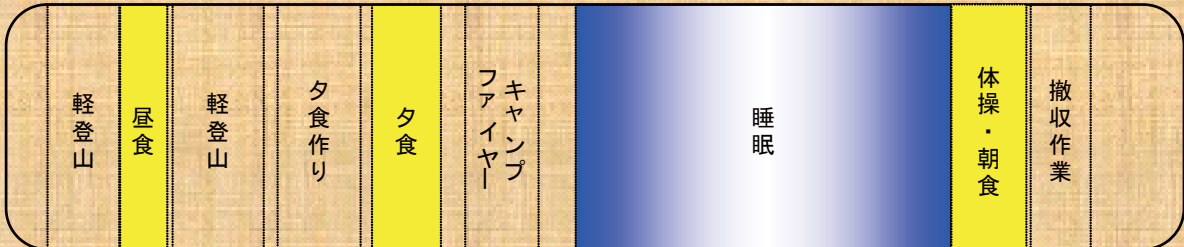
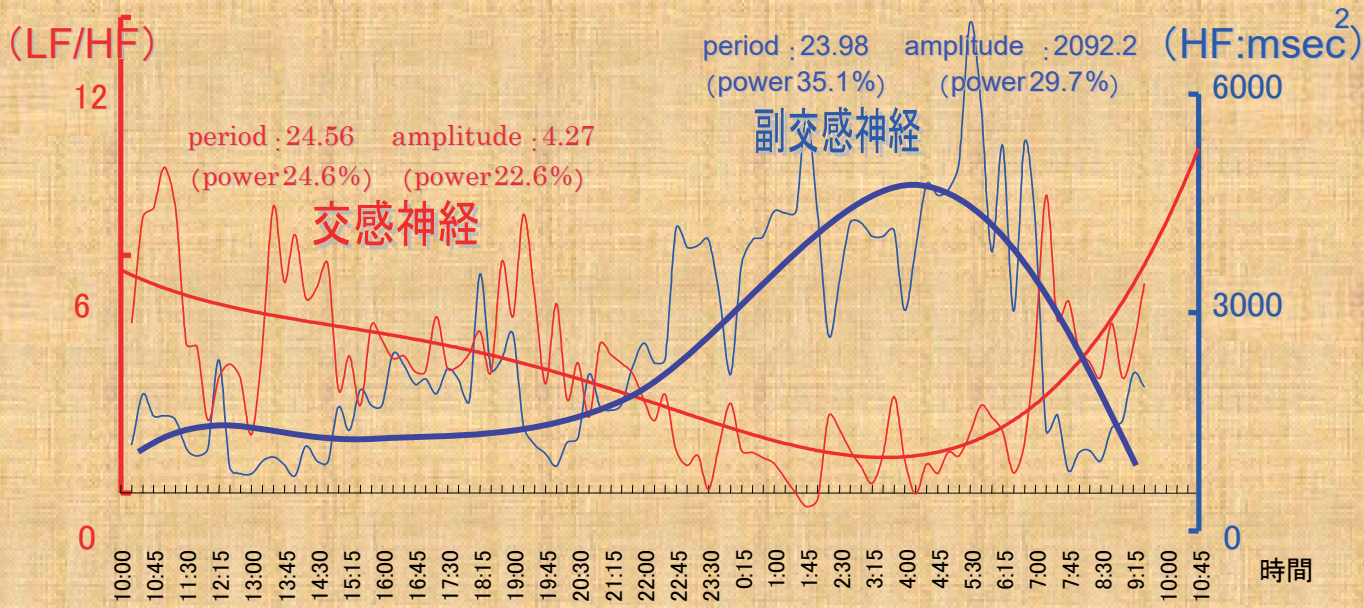




キャンプ1日目の自律神経機能日内リズム(被験者:1)

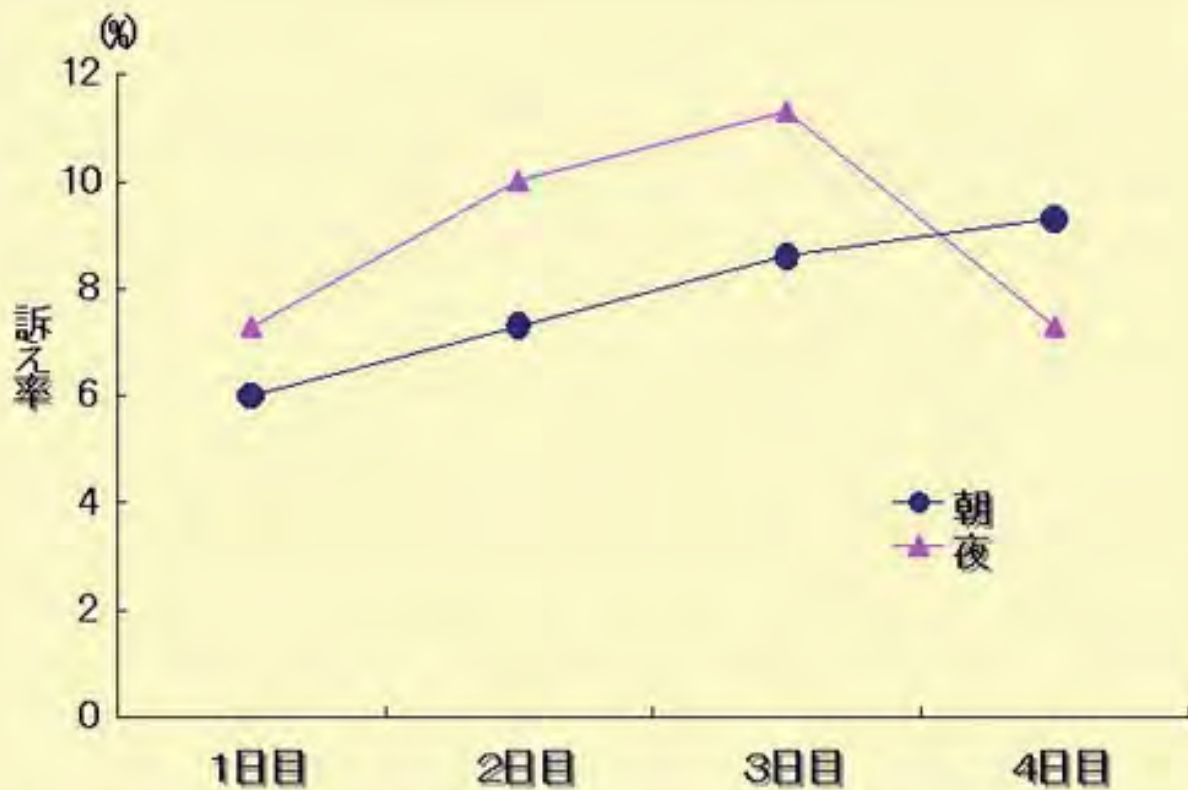
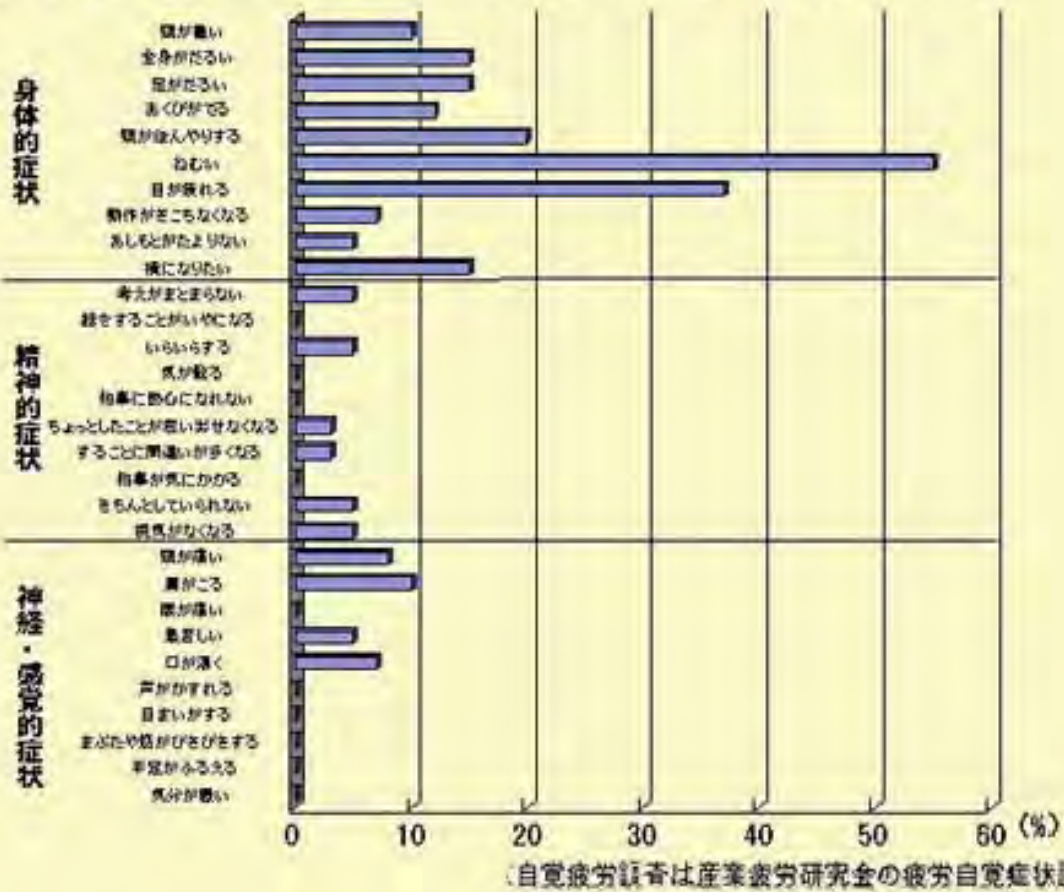


キャンプ2日の自律神経機能(被験者:1)



キャンプ3日目の自律神経機能日内リズム(被験者:1)

キャンプカウンセラーの自覚疲労項目別訴え率



キャンプカウンセラーの自覚疲労訴え率

(自覚疲労調査は産業疲労研究会の疲労自覚症状調査を使用)

児童期～老年期の精神的発達

□ 幼児期 6歳頃まで

しつけの中で第1次反抗。
自分の視点から物を見る→自己中心性
物質にも生命があると考え→アニミズム
事物を人間の表情的に認知する→相貌性知覚

□ 児童期 12歳頃まで

機械的記憶・意図的学習の発達。
思考・社会性も発達し集団遊びをするようになる。
中期には同性同年代の仲間と結束→ギャング・エイジ

□ 青年期

前期には第2時性徴・第2次反抗。
中期には親からの依存を離れようとする→心理的離乳
⇒理想主義的な思考・外部への価値観への疑問
後期には身体的・精神的発達の完了・他人の価値観の理解。

□ 成人期 60歳頃まで

独立して社会的な活動により生計を営み、多くは家族を形成する。
様々な場面での他者との関係の中で、自分を発見していく。
世代の確立と指導に対する興味や関心

□ 老年期

心理的・身体的機能の減退、退職や配偶者との別れなどの喪失を特徴とする一方、
個人の持つ価値観や自我統合が確立する。

児童期～青年期の諸発達

	児 童 期	青年期前・中期(中・高生)	青年期後期(大学生)
知的発達	文字言語の発達が急速に進み思考能力、記憶力が年齢とともに発達する。知的な面では、思考のし方が抽象的ではなく、具体的である。	前期は、認識のし方が、内省的になり、物事に対して抽象的、論理的に考える傾向が強くなる。高校になると論理的思考が特に発達し理想主義に走る面がある。物事に対する批判の目は鋭くなっていく。	記憶力はピークを超えて、次第に低下がはじまる。推理力はピークを維持し、総合的な理解力、判断力、構成力は一層高いレベルにいく。認識のし方は、かなり客観的、即物的となる。行動のし方も熟考して、妥協への道をさぐりながら適応していく。
情緒の発達	比較的、平穏な時期である。感情のあらわれ方は、低学年では直接的な場合が多いが、高学年では、感情をストレートにあらわさず、間接的表現をとる。ことが多い。	前期は、第二反抗期で、情緒面はきわめて不安定で感情の起伏がはげしい。十分な思考をせず衝動的な行動をとることが多い。高校になると、多感多情の時期で、一生涯で最もはげしくゆれ動く。自己実現の欲求も高まり情熱をもって挑戦する傾向がでてくる。	情動面では安定化の方向にむかい、感情の表われ方も、状況に応じて社会的に受け入れられる形をとろうとする。進歩や改革に対する情熱はうすれ、冒険を批判しマンネリズムに安住しやすい傾向をもつ。
社会性の発達	子ども達だけの交友関係がじょじょにできあがり、重要な意味をもつ。高学年では、ギャングエイジを呈し、グループ内部で、仲間同志強い結びつきができる。	ステレオタイプの行動基準を設定してそれにもとづいて行動する傾向がある。また、興味、関心、能力が類似した者と親友関係をつくることが多い。最近では受験の影響で孤立化とか無気力化が生まれ、相互の連帯とか信頼をつくりにくい。	義務や責任を自覚した行動をとるようになる。活動範囲の拡大によって、視野が広がり、社性も身につく可能性が大きい。ただし、興味、関心の領域によっては視野を狭し、閉じ込める傾向も助長される。
身体の運動発達	運動能力は直線的に向上する。高学年で協応動作がかなり高い水準に近づく。	運動面では、男子の運動能力はのびつづけるのに対し、女子では中学生では、発達が鈍くなり、高校では、横ばいの状態になる。*協応動作については男女ともに成人の域に達し、完成期にはいる。	運動面では完成化し運動能力は最盛期から衰退期に向かう。

フロイトの発達段階理論

幼児から青年までの性的な側面の発達をリビドー(性的エネルギー)概念のよって独自の精神・性的発達理論を提唱。

〈口唇期〉→〈肛門期〉→〈男根期〉→〈潜伏期〉→〈性器期〉

ピアジェの知能の発達段階説(認知的発達段階説)

〈感覚運動期〉0～2歳

↓ 感覚と運動の反復によって意図的に外界に働きかけるようになる

〈前操作期〉2～7歳

↓ イメージや言語が発達してくるが、一般化・抽象化・概念化ができない。
象徴的思考・直感的思考の段階でアニミズム・人工論・実念論・自己中心性などが特徴。

〈具体的操作期〉7～11歳

↓ 具体的な論理的思考が可能になり、保存概念が獲得される。
脱中心化した思考へと移行し客観的な空間・時間概念ができてくる。

〈形式的操作期〉11～15歳

抽象的な事柄に対しても論理的思考が可能になり。
例としては科学における仮説演繹的思考

エリクソンの心理社会的発達論(ライフサイクル論)

ライフサイクルという観点から個人の一生を乳幼児期から老年期まで8つの段階に分類し、それぞれの時期において固有の危機(心理社会的な危機)を想定し、その危機を解決していくことによって健全な人格が形成されると考えた。

〈信頼 対 不信〉	0～1歳半
〈自律 対 疑惑〉	1歳半～3歳
〈自主性 対 罪悪感〉	3歳～6歳
〈勤勉性 対 劣等感〉	6歳～11歳
〈自我同一性 対 同一性拡散〉	青年期
〈親密と連帯 対 孤立〉	成人初期
〈生殖性 対 自己吸収〉	成人中期
〈完全性 対 絶望〉	老年期

ハウィガーストの発達課題

人間が社会的に正常な発達を遂げるために、各発達段階で達成すべきそれぞれの課題を「発達課題」と呼び、人間の一生を6つの段階に分け各段階において課題を設定している。

コールバーグの道徳性の発達段階説

人間は社会で善とされること、悪とされることを理解し、それに基づいて行動できるようになっていく過程を道徳性の発達という道徳判断についての3水準6段階からなる発達段階を明らかにした。

友人関係成立の要因

要因	特徴	時期
相互的接近	住所が近い、いつも遊ぶ、通学路が同じ、席や順序が近いなど。	幼児期と児童期に多い。年齢と共に下降する。
同情・愛情	何となく、感じがよいなど有機的好感。おとなしい、親切で優しい、快活で明朗、面白いなど同情共感。かわいい、とても好きなど。	どの時期でも交友関係の強い基盤をなす。女兒において目立つ傾向がある。
尊敬・共鳴	相手の学業・知能・人格的特性の優れていることを尊敬し、気が合う。性格・趣味・希望・意見などが一致する。思想の共鳴。	幼児期・児童前期には少ないが、その後、年齢と共に上昇する。
集団的共同	教えあう、助け合う、同一目標追求のための協同の態度、チームワークがうまくいくなど。	児童後期から始まり、青年期から上昇する。

母親の養育態度と子どもの性格

母親の態度	子どもの性格
1 支配的	服従、自発性なし、消極的、依存的、温和
2 かまいすぎ	幼児的、依存的、神経質、受動的、臆病
3 保護的	社会性の欠如、思慮深い、親切、神経質でない、情緒安定
4 甘やかし	わがまま、反抗的、幼児的、神経質
5 服従的	無責任、従順でない、攻撃的、乱暴
6 無視	残酷、攻撃的、情緒安定、想像力にとむ、社会的
7 拒否的	神経質、反社会的、乱暴、注意をひこうとする、冷淡
8 残酷	強情、冷酷、神経質、逃避的、独立的
9 民主的	独立的、素直、協力的、親切、社交的
10 専制的	依存的、反抗的、情緒不安定、自己中心的、大胆

理02-12

<p>1 海面上昇 高潮 (沿岸、島しょ)</p>	<p>2 洪水 豪雨 (大都市)</p>	<p>3 インフラ 機能停止 (電気供給、医療などのサービス)</p>
<p>4 熱中症 (死亡、健康被害)</p>	<p>将来の 主要なリスク とは？ 複数の分野地域におよぶ 主要リスク 出典) IPCC第5次評価報告書 WGII</p>	<p>5 食糧不足 (食糧安全保障)</p>
<p>6 水不足 (飲料水、灌漑水の不足)</p>	<p>7 海洋生態系 損失 (漁業への打撃)</p>	<p>8 陸上生態系 損失 (陸域及び内水の生態系損失)</p>

出典) IPCC第5次評価報告書

JCCCA

各国の削減目標

国連気候変動枠組条約に提出された約束草案より抜粋

国名	削減目標	削減目標
 中国	GDP当たりのCO ₂ 排出を 2030年までに 60-65% 削減 ※2030年前後に、CO ₂ 排出量のピーク	2005年比
 EU	2030年までに 40% 削減	1990年比
 インド	GDP当たりのCO ₂ 排出を 2030年までに 33-35% 削減	2005年比
 日本	2030年度までに 26% 削減 ※2005年度比では25.4%削減	2013年度比
 ロシア	2030年までに 70-75% に抑制	1990年比
 アメリカ	2025年までに 26-28% 削減	2005年比

平成27年10月1日現在

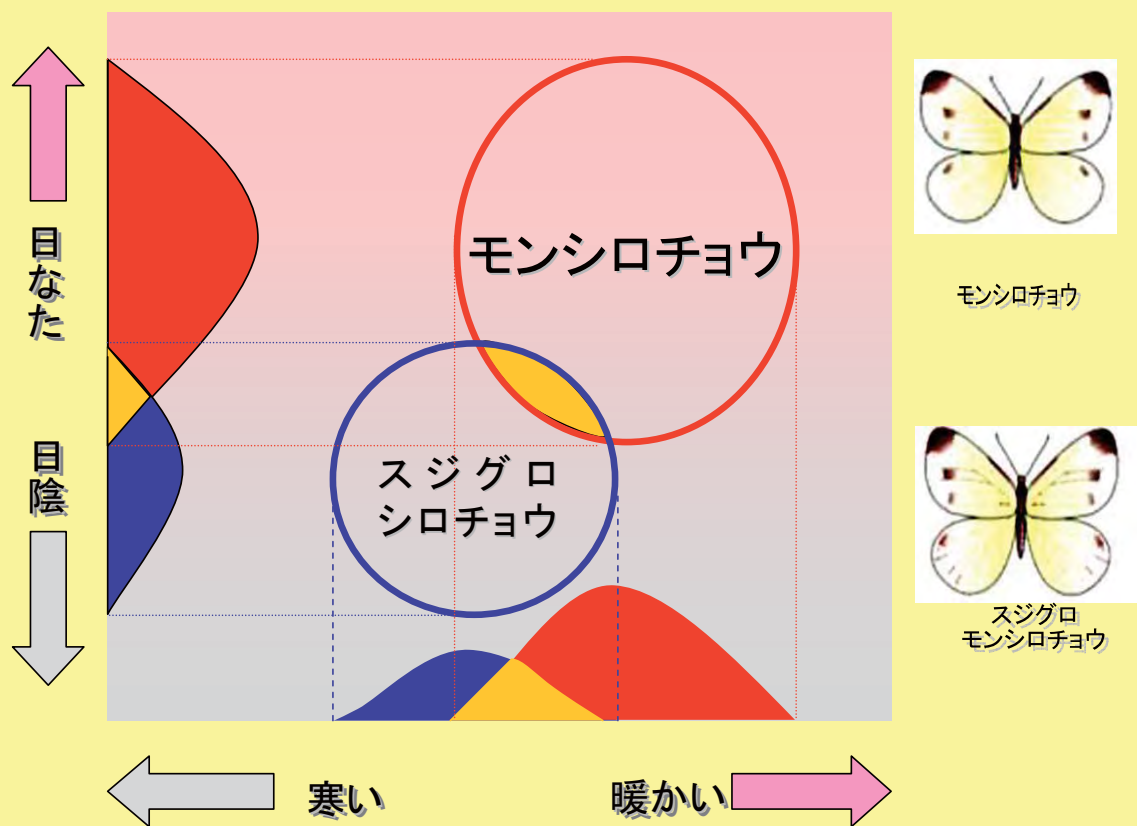
出典)国連気候変動枠組条約に提出された約束草案より抜粋

植物の垂直分布

標高	垂直区分	気候帯	特徴	植物例
300m	高山帯	寒帯	高山草原(お花畑)になったり 低い木が育つ	コマクサ・コケモモ ハイマツ
2500m (森林限界)	亜高山帯	亜寒帯	針葉樹林が多く、ダケカンバ などの夏縁樹林が混在する	コマツガ・トウヒ シラビソ・モミ ダケカンバ
1700m	山地帯 (低山帯)	冷温帯	夏縁樹林が多い	ブナ・ミズナラ クヌギ・シラカンバ カエデ
700m	丘陵帯 (低地帯)	温暖帯	照葉樹林が多い	シイ・クスノキ カシ・ヤブツバキ
0m				

鈴木孝仁: 生物図鑑. 数研出版, p183, 2005より引用

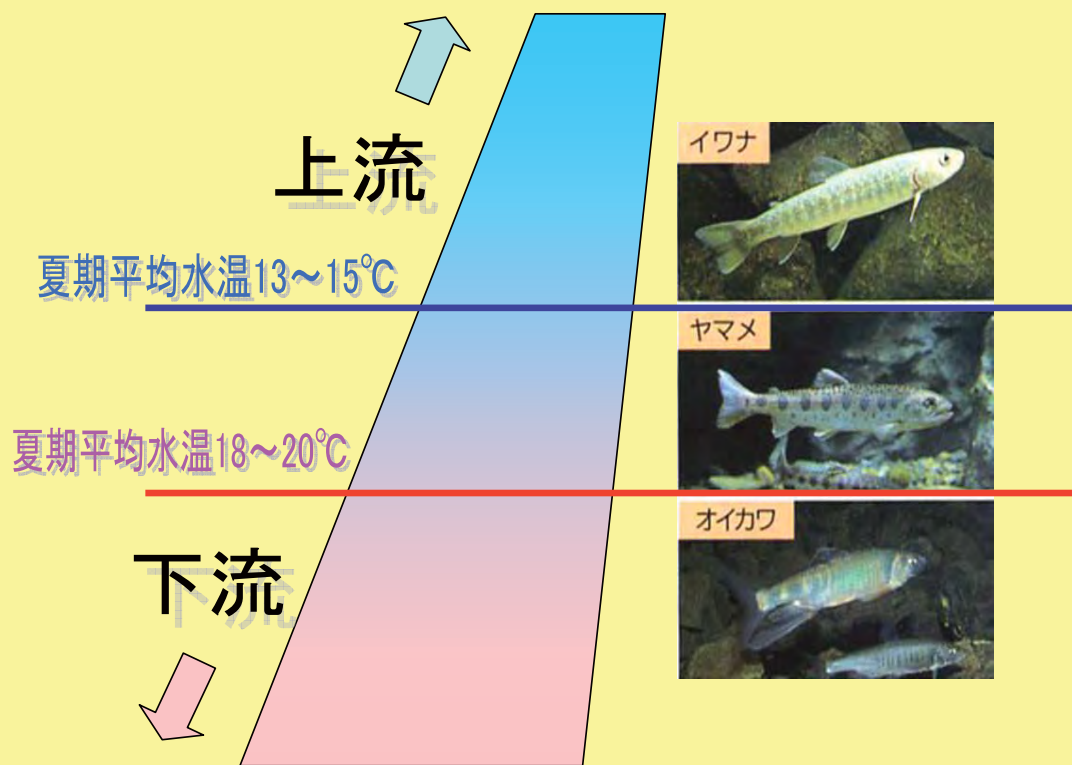
2種類のチョウのすみわけ



モンシロチョウとスジグロモンシロチョウは同じ地域に生息していますが、食草、住む場所の温度や日当たりの重なりを少なくしてすみ分けをしている。

鈴木孝仁：生物図鑑. 数研出版, p175, 2005より改変して引用

川の魚類のすみわけ



イワナとヤマメは、夏期の平均水温が13~15°Cの所を境にすみわけする。上流からイワナ域、ヤマメ域、その下流にウグイ・オイカワ域、コイ域が区別できる。

鈴木孝仁：生物図鑑. 数研出版, p174, 2005より改変して引用

地形の理解

地形は水がつくる

水之力による

風化

浸食

運搬

堆積

地形を変化させる

地形が大きく変化する場所は水の動きが活発

テントサイトの確認・登山道の確認等
活動場所の安全性の確認